〈編集後記〉

関西自然保護機構の会誌に寄せて

最近，会誌の購読・購入希望が大変興味ある傾向になってきているように思われます。一つは，これまで公的な機関からの購読希望は国内に限られていたのが，昨年は国外の公的機関からの購読希望もでてきたことです。いうまでもなく，このことは今日までの編集にかかわってきた関係者の多大な努力によって，会誌が国外からも高い評価を受けるようなレベルにまで発展・充実したことを反映したものであります。もう一つの傾向は，若い新進気鋭の研究者から，自分の研究に引用したり参考にしたいという理由で，会誌の巻・号を指定したバックナンバーの購入希望が多くなっていることです。例えば，最近もバックナンバーを購入したいという若い専門職の方から「ある鳥類の生息密度について調査をしていく予定であるが，会誌のある巻・号に掲載されている鳥類の論文を是非参考にしたいと考えているので，その会誌を購入したい。」といった会誌注文のファックスが届きました。これは，関西自然保護機構の中心事業である会誌発行に際して，優れた内容の論文が多く投稿されている結果であります。さらに，そうした若い研究者の皆さんが参考にした論文に啓蒙・啓発されて，努力された貴重な調査研究成果を論文にまとめて投稿してもらえたらと期待もしています。

こうした会誌の講読・購入者の希望の傾向にも応えられるように，山倉前編集委員長のいう「地方自然誌の専門誌」をめざして，元気な編集委員の皆さんともに邁進していく所存です。しかし，それには会員各位の絶大なるご協力・ご支援が絶対に欠かせないことを申し添えて編集後記といたします。

（小林圭介）

原稿との出会い

会誌の表紙がカラーになったのは，山岸哲先生が編集委員長をしておられた1993年6月（15巻1号）のことであり，オオヨシキリがトップバッターでした。以来，毎号，インパクトのある写真が表紙を飾っています。今号の表紙写真は奈良公園飛火野のエゴノキです。飛火野では5，6年前からイノシシによるシバ草地の掘り返しが行われていますが，年々，そうしたイノシシの活動は活発になってきています。5月に入り，シバやノチドメが生長したことで，掘り返された裸地部分が少し緑になってきたとはいうものの，開放的なシバ地に夜な夜な出没するイノシシが自然に与える影響を，どう考えたらいいのでしょうか。

さて前号に続いて今号も，奈良県在住の昆虫写真家伊藤ふくお氏に表紙の写真を提供いただきました。この写真は「奈良公園の植物」（2004年）に掲載されたものです。同氏は昆虫の写真だけでなく，「どんぐりの図鑑」（2001年），「ひっつきむしの図鑑」（2003年）など，地域の動物や植物を丹念に追いかけた著書を発表しておられます。KONC編集者の要望に，快く珠玉の作品を提供いただき感謝しています。次号はぜひ会員の皆様からの写真を掲載したいと思っています。皆様のナイスショットを編集事務局までお寄せください。

会誌編集者の苦悩と喜びは原稿との出会いにありますが，前号からスタートした「自然へのアプローチ―今，若い研究者がとりくんでいること―」は，著者にずいぶんご苦労をおかけしているようです。KONCは「自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力する」ことを創立の主旨としています。そうした視点で活躍している若い研究者の皆様に誌面に登場いただきたいと考え，このシリーズをスタートさせました。前号は琵琶湖を，今号は熱帯をフィールドとする大学院生の研究へのとりくみが紹介されています。いずれも若い研究者が悪戦苦闘しながら，試行錯誤を通して，自然や生物のメカニズム解明に着実に歩みを進めている姿がリアルタイムで伝わってきます。次号に向けて，表紙写真，原著論文，報告，活動記など皆様の玉稿を心よりお待ちしています。

（前迫ゆり）